

# 日本を代表する空の玄関口を建設

## 空港建設から見る空の玄関口

### ■ 成田国際空港（旧 新東京国際空港）

#### 地図から見る空港建設



空港建設前は、下総御料牧場などがあり、のどかな農村地帯でした。



御料牧場の跡地などには、滑走路や空港施設が建設され、空港へのアクセス道路や鉄道が整備されました。



空港の拡充や鉄道の乗り入れ、ホテルなどの宿泊施設の建設がされています。

#### 成田国際空港建設経緯

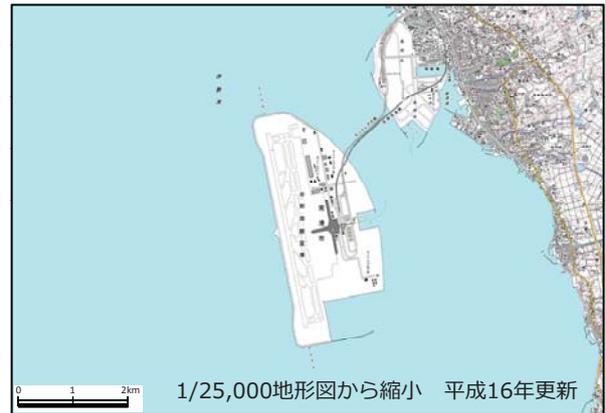
1960年（昭和35年）代に入ると高度経済成長により国際輸送における航空の需要に対応するために新空港建設の検討が始まりました。

当時の羽田空港の拡張には、港湾での土木技術、港湾計画、管制区域の調整などの対応が難しいことから、いくつかの候補地のなかから千葉県三里塚に決められ、1978年（昭和53年）5月20日に新東京国際空港として開港しました。

その後、空港への鉄道や道路の乗り入れ、滑走路の拡充、空港関連施設の建設などが行われて現在に至っています。

なお、「新東京国際空港」は、2003年（平成15年）の公団から新会社に移行した際に、「成田国際空港」と名称変更しました。

日本での空港建設は、騒音問題などから海上や郊外に大規模な空港を作るようになりました。



● 海上に建設された中部国際空港（平成17年開港）



● 郊外に建設された広島空港（平成5年開港）